

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	非寛解期骨髄系腫瘍に対する移植前連続レジメンの検討
	研究目的	造血器疾患の非寛解期移植成績は極めて不良である。近年、実臨床では、腫瘍コントロール目的として、化学療法をコンパクトに連続させ、同種移植へ橋渡しする治療戦略が用いられるようになってきた。しかしながら、その実態や治療成績は不明な点が多い。本研究では、非寛解期骨髄系腫瘍を対象として、移植前連続レジメンの意義を検討する。連続レジメンの定義として、低用量シタラビン療法投与終了 14 日以内または、強力化学療法終了 18 日以内の前処置開始とした。主要評価項目は、全生存率、副次的評価項目は、再発率、非再発死亡率など。
	研究対象者	2014 年 1 月から 2020 年 9 月までに、当院血液内科にて非寛解期骨髄系腫瘍に対して、連続レジメン施行後に同種移植を施行した患者さん。
	研究期間	西 暦 2020 年 11 月 2 日 ~ 西 暦 2022 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	立花崇孝
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	血液内科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし